



▲東部土木事務所玄関前で

WIND21

第109号

平成25年11月25日発行

第109号の内容

- 応援県の紹介 三重県
- 応援県の紹介 山梨県
- ベテラン技術職員からお便り
- 新任職員の紹介

写真で振り返る最近の話題

三重県

今でしょ！やるしかないでしょ！やるのみ！！

【三重県の紹介】



伊勢神宮 宇治橋



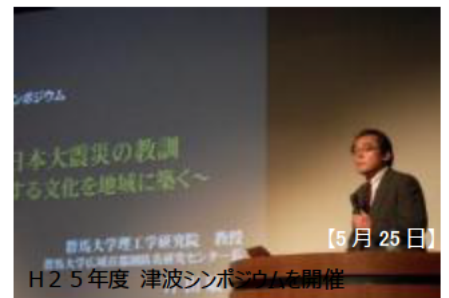
伊勢えび

「三重県」と聞いたら？三重県には今年、20年に1度の式年遷宮「遷御の儀」が行われた伊勢神宮、来年、世界遺産登録10周年を迎える熊野古道伊勢路、F1や8耐が開催されている鈴鹿サーキット、買い物も遊園地も楽しめる長島リゾート等の観光スポットがたくさんあります。さらに、伊勢えび、松阪牛、真珠といった特産品や、海女さん、忍者も注目されています。でも、これらが全部、三重県のものだと知っている人は、あまり多くないように感じます。

そこで・・・H25年4月からH28年3月まで「実はそれ、全部三重なんです！」というキャッチフレーズで、観光キャンペーンを展開中です！期間中は、三重県をもっとお得にもっと楽しく旅していただけるよう特典満載の「みえ旅パスポート」を県内各地の観光案内所等で発給中です。三重県に旅行予定の方、



松阪牛



【5月25日】

H25年度 津波シンポジウムを開催
(講師の群馬大学 片田敏孝 教授)



【5月26日】

化女沼ダム環境美化活動 実施

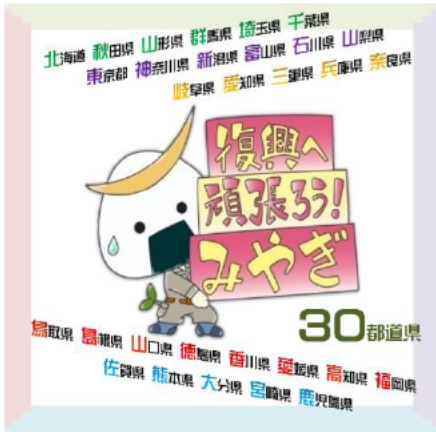


【6月3日】

任期付き職員辞令伝達式 開催
幹部職員との集合写真

必携ですよ！

三重県までは遠い・・・と思う人！首都圏営業拠点「三重テラス」が東京日本橋に今年9月28日オープンしました！三重の魅力を丸ごと体感できるスポットですので、東京へ行ったついでに寄っていただいて、三重県の文化にふれて、三重県への旅のきっかけにいただければなあ、と思います。



【宮城県の観光、食文化】

宮城県は、三重県とよく似た地形リア式海岸で牡蠣の生産地でもあります。三重県も宮城県から牡蠣の種を仕入れて生産しています。(的矢牡蠣が有名です。)

宮城の観光地と言えば特別名勝松島ですよ。三重にも松島に負けない英虞湾があり特にお勧めは夕日の景色です。

それからやはり宮城といえば「食材王国みやぎ」ですね。サンマ、カツオ、ホヤ、ふかひれなど特産の水産物があり、高級和牛肉の「仙台牛」などたくさんあります。特に牛タンは、美味しく頂いてます。しかし、三重にも負けない「松阪牛」があります。特にお勧めは、松阪市一円にたくさんあるホルモン屋です。一度松阪にこられたら食べてみてください。宮城県の寒さ(特に石巻は、北風が強くて大変冬はつらいです。)ははんぱじゃないよ。

【宮城県職員に伝えたいこと】

東海地震が30年以内に発生する確率は88%、連動するであろう東南海及び南海地震も60～70%の確立で発生すると言われています。我が三重県の南部は、太平洋に面した海岸線を抱えており、被災地となることは想定外とは言えません。我々派遣職員は、昼夜休日を問わず業務に追われるなか、被災し受援県となることを想定し、緊急時にすべきこと、収束時(復旧・復興)にすべきことを肌身に感じています。危機管理とは災害時に限られたものではなく、日々においても危機管理意識を持った対処をすべきと考えられますが、果たしてどうか？我が三重県職員はどうか？伝えなければいけない重要事項だと思っています。

【三重県職員を紹介】

■主幹 ^{まささき} 正木 ^{よしのり} 吉則



- ①東部土木事務所 用地班
- ②平成25年4月～平成26年3月
- ③配属先事務所の河川砂防一班が担当する箇所の用地買収をしています。上半期は底地調査等が中心でしたが、下半期からは境界立会や用地交渉等、勝負の時が始まりました！
- ④三重県職員の職員力公募制度にある募集職務で、宮城県派遣を志願し

着任することができました。継続していた筋トレの回数は激減してしまいましたが、根っからの体育会系で戦っています。努力と根性と心意気！！

■主幹 ^{ながしま} 長島 ^{ひろかず} 弘和



- ①東部土木事務所 用地班
- ②平成24年4月～平成26年3月
- ③東松島市内の河川改修に関わる用地取得業務を中心にやっています。また、国、東松島市からの所管換え業務が後半多くなりそうです。
- ④昨年からは、こちらで仕事をしていますがなかなか思うように仕事が進まなく試

行錯誤の毎日です。残り少なくなりましたが、一歩でも前に進めていけるように精一杯頑張ります。

- 氏名
- ①所属
- ②派遣期間
- ③業務内容
- ④一言

【はじめに】

震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

昨年度は、山梨県から2名が仙台土木事務所に配属されていましたが、今年度は私一人になりました。しかし、“魂”はしっかり引継ぎましたので、最後まで諦めず、“ともに前へ”進みますので、今後もよろしく願います。

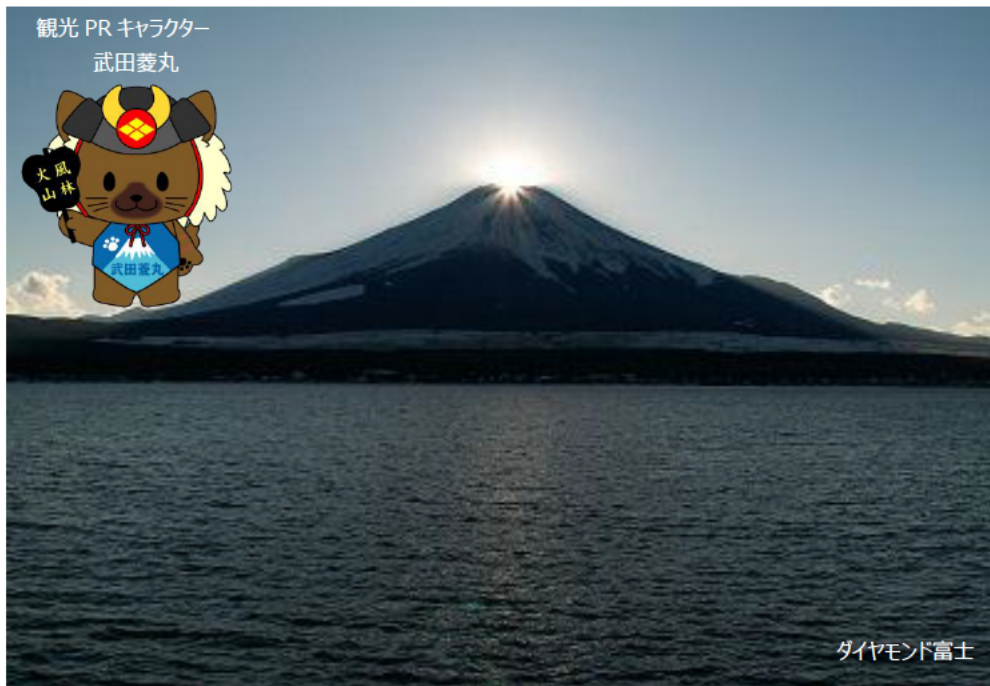
地味で知名度の低い山梨県ですが、今後、お洒落で魅力ある県に大きく変貌します。今年、富士山が、世界文化遺産に登録されました。ハード及びソフトの両面で「お・も・て・な・し」の心をもって国内外からの観光客を迎えます。ぜひ、山梨へお越しください。

山梨の地元住民に親しまれてきた料理と言えば、B-1 グランプリで第1位を獲得した「甲府烏もつ煮」をはじめ、「吉田のうどん」、「大月おつけだんご」、武田信玄公が野戦食に選んだという「ほうとう」があります。また、山梨県は日本のワインの発祥の地であり、約80社のワイナリーが国内の約3割のワインを生産しています。なかでも、本県特産の甲州種ブドウで造られた白ワインは、海外でも注目を集めており、世界市場へのチャレンジも始まっています。



観光 PR キャラクター

武田菱丸



ダイヤモンド富士

山梨県

魂で東北復興！

【宮城県の観光、食文化】

小学生から野球を続けている私にとっては、地元のプロ野球チームがあることは、羨ましい限りです。Kスタが仙台土木事務所から近いこともあり、職場の仲間と幾度となく、楽天の試合を観戦しました。そして、我々の願いが通じ、東北の思いを背負い戦った東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一に輝きました。徐々にシビレました。

観光地では、仙台の街中が好きです。特に、定禅寺通りがお気に入りです。脇にあるにぎやかな繁華街と落ち着いた雰囲気は何とも言えず、学生の頃、よく散歩していました。今年の冬、ページントの時期に、当時の懐かしい思い出を呼び起こしながら、家族と一緒に同じ道を歩きたいと思います。

【宮城県職員に伝えたいこと】

今年、子ども達を被災地に連れて行きました。子ども達は、しばらく呆然としたまま立ちすくむでいましたが、敢えて感想を聞きませんでした。数年後、同じ場所を再び訪れ、当時、何を感じたのか、何を考えたのか聞きたいと思います。

山梨のローカルテレビでは、復興に関する話題が、ほとんど取り上げられていないことに大きな驚きを感じました。派遣期間中に感じたことを伝えることが、復興に対する私の責務のひとつであると考えています。

最後に、学生として4年、社会人として2年、宮城県で多くの方と出会いました。東北の復興を願うとともに、この出会いを大切に今後も復興に貢献したいと思います。

【山梨県職員の紹介】

■主任主査 水口 純一 みずぐち じゅんいち



- ①仙台土木事務所総務部用地第二班
- ②平成24年4月～平成26年3月
- ③次の事業における用地買収及び補償に関する業務
 - ・岩沼海浜緑地線押分道路改良事業
 - ・西川橋橋梁災害復旧事業
 - ・塩釜巨理線早股寺島道路改良事業

④震災3ヶ月後に派遣された大船渡の海辺で、3歳の女の子がおばあちゃんと一緒に、海を見つめながらパパとママを待っていました。その光景が、派遣のきっかけです。派遣二年目、最後まで諦めず全力で取り組みます。

■氏名

①所属

②派遣期間

③業務内容

④一言

山梨県職員の水口さん ご執筆ありがとうございました

ベテラン技術職員からのお便り<第1弾>

栗原地方ダム総合事務所 三浦 巳徳 所長



みなさんこんにちは。栗原地方ダム総合事務所の三浦です。

ここ花山も晩秋の季節を迎え、栗駒山麓の木々も落葉し雪が降るのを待つばかりです。私も遂にこの企画を書く時がきたかと少し感傷にふけているところです。

東日本大震災から2年半が経過しました。早期復旧に全力で取り組んでいる土木部の皆さんご苦労様です。これまでの激務で目に見えない疲労も蓄積していると思います。体調の管理だけは自己管理ですので充分気をつけていただききたいと思います。

■ はじめに

私は昭和47年に石巻土木事務所からスタートいたしました。時代はオイルショック前の日本列島改造論のもと建設ラッシュで建設土木の華やかな頃でした。ちなみに、歌手・麻丘めぐみ（曲名「わたしの彼は左きき」）がデビューしたのもこの年です。

石巻は単独事務所で敷地内に職員寮が建っていたので勤務時間は不透明（残業、酒飲み OR 麻雀）、職員寮は工事現場の飯場の様相を呈して、朝は寮生約20人の朝食のご飯の盛り付けから始まります。最初は想定外のことがばっかりでいつ辞めようかと思っていましたが、就職に際し親戚や隣近所の人々から饞別を頂いた手前1年は我慢することにしました。そのうち先輩達の暖かい指導で補正予算が内示される秋頃には現場も任される等いつのまにか馴染んで1年で辞めるところかついに満期まで来てしまいました。

そんな不安なスタートからこれまで歩んできた中で忘れられない出来事を記述したいと思います。

■ 国道347号（吹雪の中での測量）

古川土木事務所に転勤して国道347号の新規の道路改良を担当することになりました。現場は筒砂子ダム計画に影響しない区間ということで山形県境です。国道とは名ばかりの山道を10kmほど奥に入った場所でした。このため事業用地は全て国有林野で、道路予備設計も完了して詳細設計の納品を待つだけでしたので特に課題も無いと思っていました。

ところが、詳細設計が出来上がってから国有林野を所管している青森営林局へ事業説明に行き多くの指摘を受けてしまいました。たまたま、前年に台風による洪水で鳴瀬川が濁った時に国有林の伐採が問題になり神経を尖らせていた時期と重なり山側に切れ込まない道路法線の変更を余儀なくされ、沢側は筒砂子ダム計画の影響で一級河川に指定されていたので法線の変更に伴い河川協議も平行して行わなければなりません。

毎月のように青森に通い協議を進めましたが保安林解除申請には至りませんでした。やもえず、次年度の工事用地を確保するため、営林署の指導のもと直営で用地測量を実施することになり吹雪の中での作業を強いられました。午後は天候が急変するため、朝早くからの作業で寒さに身が凍り、自身の不甲斐なさに気持ちが凍るようでした。

関係機関への調整・説明不足と鳴瀬川の濁水といった地域の現状・課題を把握していなかったことに対する反省やら、自分自身の仕事に対する段取りの悪さを後悔しながら測量作業をしたと記憶しています。

余談ですが、現場に通うたびにダムの陰口を言っていたら、古川土木事務所からの異動内示は長沼ダムの長沼出張所でした。また、後には筒砂子ダムの事業休止騒動にも巻き込まれました。

■ 江合川「現地（現場）を見て判断」

当時の江合川砂防工事事務所勤務の時です。江合川上流（鬼首地区）で施行していた大規模流路工事も完成間近になり、次は下流（川渡地区）を新規採択する準備を進めなければという時期でした。突然、本省の砂防部長が現地視察に来ることになり資料等の準備不足の中、概要図一枚で状況説明を行ったにもかかわらず、即座に新規事業としての内諾を得てしまいました。

おかげで一年前倒しの事業着手で慌てたのは言うまでもありませんが、現地足に足を運ぶことの大切さ、資料で確認するより実際に見て判断することの重要性を教えられた出来事でした。

これ以来、当たり前ですがまず現地を踏査するということを肝に銘じて設計・監督業務にあたりました。また、係長、班長の時は監督員と一緒に現場に行きその場（現場）で指導するようにがけました。

■ 気仙沼「〇〇さんを待っていた」

宮城北部連続地震の年は気仙沼土木事務所勤務でした。年度初めには会計検査で指摘を受けて 2 度も実地検査を受検する等、精神的に疲れている中で毎月のように地震が発生しました。地震の影響で地盤が緩んでいる状態での大雨で魚町地区の斜面が崩落し巨大な岩石が落下し斜面の下に駐車していた車数台が大破しました。幸いにも一部設置していた待ち受け擁壁のおかげで直下のホテルや民家に被害が及ばず安堵しましたが、会計検査対応で忙しい中、今度は災害かと途方に暮れているときでした。当時の S 土木部次長が被災現場を訪れた際に被災状況を説明しながら愚痴をこぼすと、例のやさしい口調で「落石は三浦さんが来るのを待っていたんだ」という話をされました。その時は何をからかっているのかと憤慨して気にも留めませんでした。

しかし、その言葉を思い出し心が折れそうになった時に勇気づけられました。平成 20 年の岩手・宮城内陸地震のときです。このときも転勤した直後でしたし局部地震ということで「何～すや、俺の時に」という思いが先で初動期対応のことなど頭に浮かんでできませんでした。そんな時、ふと前述の話を思い出し「俺が来るのを待っていたならやるしかない」という自信過剰さみですが前向きな気持ちになることが出来ました。

今、思うと力強い激励の言葉だったと感謝しています。業務上で難題が降りかかってきたら「〇〇〇は俺を待っていたんだ」と受け止めて進めてみてください。

■ 終わりに

4 0 数年という長い間にはいろいろな時代がありました。入庁した頃の「日本列島改造論」という華々しい時期から、後の「公共事業不要論」やら「コンクリートから人へ」という土木技術者にとっては不遇の時期もありましたが、東日本大震災後の今は「国土強靱化計画」のもとにまた土木技術が必要とされる時代が訪れていますので技術者として誇りをもって仕事に励んで頂きたいと思います。それから、若手職員のみなさんには震災復興という激務の中ですが、新しい土木技術の習得といった箇々のスキルの向上、多種多様な工事現場を見るチャンスと捉える位の余裕（ゆとり）も必要です。（課題は組織が解決しますから。）

来年からは復興の再生期を迎え益々ハードになると思いますが身体に気をつけてふるさと宮城のために頑張ってください。

追伸：

まだ、数ヶ月の在任期間がありますので少々早いです、この紙面を借りてお礼を申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

中南部下水道事務所 伊東 東 所長

■ はじめに

平成22年7月からスタートしたこのリレーノートに原稿を依頼されるのは、まだ先の話だななどと思っていましたが、あっという間に時が過ぎてしまいました。皆さんにはどのようなことが伝えられるか自信はありませんが、この40年間の思い出などを綴ってみたいと思います。

■ 人とのつながり

私は40年間で土木部各事務所・保険環境部（旧名）環境保全課・地方振興事務所水産漁港部とを勤務し、土木関係の設計・監督・維持管理業務・自然保護関係業務・漁港設備建設・管理業務と経験してきましたが、私にとっては他部局における土木職とは違う人とのつながりや経験は、視野の広がりや考え方の違いなど大変勉強になり、自分形成に役立ったと思います。また、土木部に戻ってから多くの人にお付きあい助言などいただき大変感謝しております。

改めて自分が勤務した事務所の昔の名簿を整理してみました。大人数の事務所や少人数の室で勤務しましたが、17事務所・課・室で名簿に掲載されている県職員の人だけでも延べ2,000人を超え、また、事業に関係した県庁本課の人や、事務所の人、名簿に掲載されていない浄書（昭和の頃の設計書は手書きで原稿を書き、女性の方が私の読めない文字を浄書し、誰でも読めるようにしてくれました）をしてくれた人、事務補助員の人等々、多くの人に支えられて過ごしてきたことを改めて感謝しています。

■ 残っているもの

入庁した頃は現在のような設計委託はほとんど無く、道路法線決定は管理を考慮して路面はなるべく日陰は造らず日の当たる所（山裾であれば北側に斜面）とし、その現場を確認することなどを教えられ、また、大雨などで災害となればポールを持って現場に行き直接測量をし、図面を仕上げ、設計書を作成して発注していました。初めてこの橋を作れと言われ、小さな橋ですが、自分で参考書をひもとき助言を受けながら設計し実施

した橋梁は、大雨や地震の時は壊れるのではないかと心配していましたが、40年近くになりますがまだ現役で残っていました。

■ 大切と思うこと

現場に行って観察すること、近年は造ると言うより管理することが多くなっています、毎日同じような状態であっても毎日観察すると、「いつもと違う」ということが感じられれば、何かが起きていると判断できます、何が違うのかそこから何か見えてくるのではないのでしょうか、感だよりの気もしますが、同じ所同じ場所から観察することとは大切なことと思います。

また、工事現場においては、自分の現場だけでなく他の人の現場を視察することも大切です。自分の現場とどこが違うのか、好い所は自分の現場にどんどん取り入れ、悪い所は意見を出し改良し、より良い完成品を目指して行くことを心がける、技術職員として現場経験を積むことが大切です。

地図を読むこと、地図記号を覚え地図の作成をするということではありませんが、管内図を見て自分のいる場所はどの辺、とかの位置情報ぐらいは把握できるようにしたいものです。土木事務所において管理河川上流端の確認作業をしたことがありますが、上流端には車で行けない所もあり管内図で自分の位置を把握し、この辺にあるはずと探したものでした。実際には管内図とのずれが大きい所もあり、現地及び台帳の字名など確認し管内図の訂正を行いました。

■ 失敗談

道路改良工事で、民地からの出入り口の幅員決定において、地元の人に一軒一軒立ち会いながら幅員決定しましたが、どうしても現在の幅員では納得してもらえず事業所からの入り口などを参考にして広げた設計をしてしまいました、その後、行政課において出入り口幅員決定などは「申請手続きの後」行うべきと指導され、事業は自分の判断だけでなく、何事においても事務所全体でチームワークでの仕事をすべきなのだ、「自分で何でも出来ると天狗になっていた」ことに今でも反省していません。

■ 終わりに

今後は現在まで建設した施設の管理が重要となってきます。施設の長寿命化を図るための計画及び事業も進んでいますが、計画段階からどのように管理するかを計画し、建設を進めるよう心がけていただきたいと思います。

東日本大震災の復旧復興はまだまだ続きますが、徐々に本格的な槌音が聞こえています。健康に十分留意され復旧復興に勤めるよう願っています。

平成25年度 新任職員（4月入庁）の紹介

河川課 企画調査班

技師 おびや 帯谷 ようすけ 洋介



【年齢】31
【出身地】山形県鶴岡市
【出身校】日本大学
【前職】鶴岡市役所
【趣味】スポーツ全般
【特技】剣道

【初心表明】

宮城県の一日も早い復興のため、自分の役割や仕事内容をよく理解し、常にスケジュールを立て、計画的な業務執行を目指します。

【県職員となって】

ブラザーをはじめとし、良き上司の元で仕事ができることに感謝しております。この環境を生かし、先輩方の仕事のノウハウを少しでも多く吸収し、日々の業務にスピード感を持って望めるよう、精一杯頑張ります。

【一言】

前職は、山形県の鶴岡市役所です。国土交通省東北地方整備局出向中に東日本大震災を経験し、復興関連業務に携わる中で、被災地の復興のために働きを考えました。現在その一員となれたことに感謝する共に、宮城県職員として自覚と誇りを持って日々の仕事に精進して参ります。

設備課 機械設備班

技師 せき 関 りょうま 諒真



【年齢】25
【出身地】岩沼市
【出身校】宇都宮大学
【趣味】食
【特技】食
【初心表明】

1日でも早く県民の役にたてるように日々努力していきたいです。

【県職員となって】

大学の専攻とは全く畑違いの分野なので覚えることが多く大変です。あと、昼食の選択肢が多くて嬉しい限りです。

【一言】

円滑な業務が行えるように1日でも早く仕事の進め方を学び、環境に慣れ、県民の生活の向上に役立ちたい。

のんびりとしたマイペースな性格ですが、色々なことを学び、理解し成長していきたいと思っておりますのでご指導よろしくお願ひします。あと、いい飯屋があれば教えてください。

設備課 電気設備班

技師 うちみ 内海 けいすけ 慶祐



【年齢】22
【出身地】名取市
【出身校】東北学院大学
【趣味】スノーボード・麻雀
【特技】天牌即立直
【初心表明】

ダム王（参考：wind21（53）第30号 平成22年度新任技術職員9名の御紹介（H22.6.4））や先輩方に仕事を教えてもらい、一日でも早く宮城県のために役立てる職員になりたいです。

【県職員となって】

扱う書類の多さやハンコを押す回数の多さなど日々驚くことばかりです。

【一言】

自己紹介欄に何を書いていいか悩むような人間です。これからよろしくお願ひします。